

再生と変化に向けて

江端 清和

公益社団法人日本診療放射線技師会 業務執行理事

第1回日本放射線医療技術学術大会（1st JCRTM、第40回日本診療放射線技師学術大会、第52回日本放射線技術学会秋季学術大会）が本年10月31日から11月3日までの会期で、「ゆいまーる ～診療放射線技術の共創～」をテーマに沖縄の地で開催されました。ご参加いただいた各位には有意義な時間を過ごしていただけたものと感じています。

開催直前には、台風21号が沖縄本島直撃もあり得る進路予想で、実行委員一同、肝を冷やしておりましたが徐々に進路がそれ、大会期間中は大変好天に恵まれました。会期最終日の11月3日時点で2,500人を超える参加登録を頂きました。12月9日まではオンデマンド配信が続いておりますので、最終的な参加登録人数は確定しておりませんが、大変多くの方に参加いただいた合同学術大会となりました。献身的なご協力を頂いた沖縄県放射線技師会の久場会長をはじめとした沖縄県役員・会員各位に厚く御礼申し上げます。



JARTにとって、他団体との合同学術大会として本年の大きなイベントとなりました。今大会では、発表を「研究」と「報告」とに明確に区別させていただきました。技師会（JART）と技術学会（JSRT）の役割の違いを明確に感じていただき、事業を分担することでそれぞれの団体に所属している診療放射線技師の活躍の場が示されたのかと思います。診療報酬政策立案委員会シンポジウムでも、技術的加点の要望は学術団体からなされる要望であり、待遇改善や施設要件に関する要望を職能団体が行うということも明確に示されていました。それぞれの団体での役割を理解して協力し、今回の1st JCRTMが今後の両団体それぞれのさらなる発展につながるステップになったものと確信しています。

他にも、本年の大きな出来事として診療報酬のトリプル改定がありました。診療報酬、介護報酬、障害福祉サービスなど、報酬の3つが同時に改定される6年に1度のタイミングで、中央社会保険医療協議会（中医協）ではその中でも医療DXの推進、安心・安全で質の高い医療の推進、医療関係職種のベースアップ評価料など、多くの時間をかけて議論されました。診療放射線技師職が国民にとって必要とされる職業であり続けるために、今後も業務範囲の拡大や各種災害への対応など、一できることは“やる”を目指してJART事業を進めていければと思います。

本年は元日の能登半島地震、また9月21日から23日にかけての能登半島を中心とした大雨豪雨による激甚災害と、石川県の皆さまには大変ご苦勞の多い一年であったことと思います。JARTでは義援金や会費減免などで対応していますが、被災病院への人的支援も実施することができました。今後もこういった自然災害への対応が求められていくことと思います。1st JCRTMでは開会式直後のセッションで、緊急報告企画として「令和6年能登半島地震への支援活動報告」も行われました。今後も学術大会を通じてJART事業の活動紹介と広報、経過報告などを広く会員各位に伝えていければと思います。次回の第41回学術大会は、2025年9月12日から14日まで福井駅周辺を会場として開催されます。すでに実行委員会ではさまざまな準備を進めていることと思いますが、福井には15基（停止・廃炉準備中を含む）の原子炉があります。あってはなりません、万が一の原子力災害への準備と対応についても、われわれの“できること”は多いのではないかと思います。

来年は巳年で、一説には「再生と変化」を意味するともいわれているそうです。会員各位におかれましては、ぜひともJART Plus（会員限定無料コンテンツ）をフル活用していただき、「再生と変化」への対応をお願いできればと思います。

皆さま、どうぞ良い年をお迎えください。